

# 一般質問

九月十九日(金)・二十一日(月)の二日間にわたり、十六人の議員が一般質問を行い、市政全般にわたる問題について、市当局の見解を求めました。

## TLLO設立への展望

**質問** TLLO(技術移転機関)設立への展望をどのように考えているのか。

**答弁** 大学等による技術移転機関は三十八の機関が設立されており、群馬大学においても検討はされているようだが、具体的な方向性は示されていない。しかしながら、本年度文部科学省が全国三十四大学を対象とした大学の技術移転に向けた基盤整備ともいえる「知的財産本部整備事業」に

(群馬大学工学部同窓記念会館)



群馬大学と埼玉大学が共同で採択され、年内にも群馬大学内に「知的財産戦略本部」が設置されることにな

っている。これは、両大学の知的財産の取得や有効活用を図り、地域の企業への技術移転を通じて地域産業の活性化を進めていこうとするものである。

また、北関東産官学研究会が進めている企業とのコ―ドイネット事業も事業効果を上げており、研究会が予定している技術移転事業も、重要な意味合いをもつてくるものと考えており、こつした中で、今後のTLLOの方向性が明らかになってくるものと考えている。

## 質問者

- 岡部 信一郎(市政クラブ)
- 小滝 芳江(フォーラム桐生)
- 森下 清秀(新声クラブ)
- 津布久 博人(日本共産党)
- 細谷 昌弘(桐翔会)
- 周東 照二(公明党)
- 西牧 秀乘(新声クラブ)
- 河原井 始(新風)
- 近藤 健司(新声クラブ)
- 中田 米蔵(日本共産党)
- 相沢 崇文(桐翔会)
- 寺口 正宣(公明党)
- 荒木 恵司(新風)
- 佐藤 貞雄(日本共産党)
- 周藤 雅彦(フォーラム桐生)
- 石井 秀子(桐翔会)

## 観光事業

**質問** 観光事業に対する基本的な考え方はどうか。

(有鄰館)



**答弁** 本市は桐生川源流林をはじめとする恵まれた自然、織都千三百年の歴史に支えられた伝統文化の象徴でもある鋸屋根などの本町一・二丁目の町並み、有鄰館・大川美術館・明治館など、さらには郷土の誇るべき伝統芸能「八木節」、そして北関東随一といわれる夏の祭典「桐生八木節まつり」などの観光資源を柱として考えている。観光は地域の自然、歴史、文化、伝統産業等の資源を活用することから、地域ぐるみの観光地づくりによる地域文化

の発見、創造を通してよりよい地域づくりに貢献するものであり、住民が地域の魅力を再認識し、郷土愛と誇りを育てていくことに効果があると考えている。

## ISO取得支援

**質問** 民間企業に対するISO取得支援はどうか。

**答弁** 地場産業振興センターを活用し、企業経営者や内部監査員の養成など、ISOに対する認識を高めたい。また、ISO取得のための研修事業等、ソフト面での支援に努めている。

## 合併問題

**質問** 桐生市は合併の法定協議会に加入したが、基

(桐生市役所)



本的にどのような考え方で交渉するのか。また、市独自の事業はどうなるのか。

**答弁** 今回の合併は、同等合併であり、構成は二市五町三村の合併が望ましいと考えている。なお、合併への基本的な考え方は、住民の意向を尊重し、住民が将来に向かって、安心して生活ができる力のある都市をつくることである。また、構成市町村にある独自の文化、伝統、習慣、祭りなどを守り、共通するものを新市役所に小さくまとめ、職員も必要最小限にするなど

今回の合併は自治体連合的な運営方法で考えている。

## 子育て支援

**質問** 子育て支援対策やその環境づくりをどのようにしているか。

**答弁** 第三子以降の子育て支援施策として、保育園保育料の第三子以降無料化を段階的に推進している。また、子供がいる家庭への支援としては、乳幼児医療費の無料化制度、保育園保育料減免制度や、小学校、中学校の就学援助制度などがある。

## 青年の雇用問題

**質問** 青年の雇用問題についてどのように取り組んでいるのか。

**答弁** 青年の就職難の実態として、まず平成十五年七月の桐生公共職業安定所の集計では市内の常用雇用の求人倍率が〇・八九倍に対し、パートの求人倍率は、七・七八倍となっており、就業形態がパート化の傾向を示し常用雇用が厳しくなっている。雇用対策として、緊急雇用発掘事業や合同企業面接会の実施。国



(ハローワーク桐生)

雇用を確保した。

## 就学援助

**質問** 就学援助の対象になっているもの、給食費の滞納状況、教育費での父母負担にはどのようなものがあるのか。

**答弁** 就学援助には、学用品費、給食費、医療費がある。給食費の滞納状況は、平成十三年度からあり、平成十四年度決算時の滞納額は約二十三万七千円である。小・中学校における教育費の父母負担は、教科用図書以外の教材費等である。

## 太田国際貨物ターミナル

**質問** 太田国際貨物ターミナルを利用する地元企業数と利用するメリットは何か。また、同ターミナルの取り扱い状況はどのくらいか。

**答弁** 現在、大手企業三社が利用しており、そのメリットは保税輸送(外国貨物のまま国内輸送ができる)による国内消費税の免除、混載シャトル利用による輸送費削減があり、平成十四年度取り扱い件数は一万四千九百六十二件で、前年比

(太田国際貨物ターミナル)



三十六・五パーセントの増取り扱い量は八万七千八百八十二トンで前年比三百五十九・六パーセント増である。

## 繊維関係の在庫処理

**質問** 市内繊維メーカーの在庫を買い上げて、発展途上国に、支援物資として提供してはどうか。

**答弁** 企業の生産在庫はあらゆる製造業が抱える問題であり、一部の業種のみ優遇する施策を講ずることは困難である。なお、繊維業界に対しては、織物協同組合等が実施する各種需要開拓事業等への支援、テキスタイル・プロモーション等の販売促進事業に対して支援などを行っている。

## 視覚障害者への対応

**質問** インターネットやコンピュータの急速な普及により、多彩な色彩を活用する機会の多い今日、色覚障害者の実態把握をしているか。また、学校での対策をどう考えているか。

**答弁** 身体障害者福祉法では視力と視野に障害のある人が対象となっており、色覚に障害のある人は対象となっていないため実態は把握していない。また、学校での対応については、教職員の研修会等を開催し、

適切な対応に努めていきたい。なお、色覚異常チェックの使用については、今後検討していきたい。

## 子育て支援

**質問** 次世代育成支援対策推進法と少子化社会対策基本法が成立したが、子育て支援・少子化対策の行動計画作成の取り組みや、小学校卒業までの医療費無料化を考えているのか。

**答弁** 次世代育成支援対策推進法の行動計画は、従来のエンゼルプランの達成状況を基に、更なる施策の



(移動子育てサロン)

実施を図りたい。小学校卒業までの医療費無料化の実施は財源問題があり、慎重な検討が必要と考える。

## 桐生市の公用車

**質問** 公用車購入の際、購入車両に企業名を入れる代わりに、企業がスポンサー

(公用車)



になり、その車両を購入することにすれば、経費削減ができると思うがどうか。

**答弁** 企業には様々な業種があり、いろいろな制限が考えられる。また、公用車の利用状況によっては、宣伝効果に不均衡を生じ、更に宣伝内容によっては、消費者とのトラブル等も考えられ、今後他市の状況を参考に検討していきたい。

## 学校週五日制と新学習指導要領

**質問** 学校週五日制にお

ける土・日曜日の過ごし方について実態把握を行っているか。また、新学習指導要領の趣旨の徹底や保護者への理解はどのように行っているのか。

**答弁** 週五日制については、学校で実施している調査結果の報告等をもとに把握に努めている。新学習指導要領の趣旨徹底は、各校で平成十二・十三年度の移行期間から教員は研修等を通じ共通理解を図っている。また保護者には、保護者会や学校・学年だより等で趣旨の徹底に努めている。

## 浸水対策

**質問** 広沢町一丁目双葉苑付近と広沢町二丁目地内の農業用水路の浸水対策は、どうなっているか。

**答弁** 双葉苑付近は、広沢川十号雨水幹線の排水区域となっており、この整備計画については、全体計画の暗渠となる約九百メートルについて、昨年度に詳細設計が完了し、今後用地買収を進める中、順次工事を行うよう努力していく。また、広沢町二丁目地内の農業用水路については、多く

(双葉苑付近の用水路)



の都市排水が農業用水路に流入し、浸水被害を起こしている。この対策は、雨水幹線の整備が理想だが、早

## 子育て支援事業

**質問** 国で推進している「日本で最も子育てしやすい街モデル事業」へ、応募する考えはあるか。

**答弁** この「モデル事業」については、まだ事業の内容や補助金等、正式に国や県から通知が来ていないので、今後動向に注視し、対応していきたい。

## 中心市街地空洞化対策

**質問** 中心市街地空洞化

対策について、支援策の一つである税制面の優遇措置についてどう考えているか。

**答弁** 中心市街地空洞化法は、国の様々な支援策がある。固定資産税等の課税の特例は、取得や整備した商業基盤施設に対する特例である。福島県で減税に関する特例を新設したと聞いており、全国の事例に注視していきたい。なお、市街地の活性化対策は必要と考

構想の協議を行っている。  
**学校安全対策と防犯対策**

**質問** 学校等の安全対策は、どうなっているか。また、市内の防犯対策として、防犯カメラの設置は考えているか。

**答弁** 各学校では、来校者の確認、校舎内外の巡視体制の確立等危機管理マニュアルの作成や訓練を行い、安全管理体制の充実に努めている。また、市内に防犯カメラは設置していないが、犯罪抑止に有効であると考

(市内の学校)



えていく。しかしプライバシーなどの問題もあり、桐生警察署等関係機関と調整を図りながら、研究していきたい。

## 国保事業

**質問** 「健康パワーアップ一〇〇日トライ」事業の

(健康講座)

趣旨と事業概要は、どのようなものか。

**答弁** 自己管理の難しい生活習慣の改善や、健康の維持管理の継続などの健康づくりのお手伝いが目的である。平成十四年度人間ドック受診者のうち、生活習慣改善実施により健康体になると思われる人を対象に希望する三十四人で、本年度は実施している。主な内容は、筋力トレーニングやエアロビクス、プールでのウォーキング、栄養指導、健康講座など二十六メニューである。

## 年金受給者の暮らし

**質問** 国民年金受給者の生活実態の把握をしているのか。また、受給者の暮らしの支援策はあるのか。

**答弁** 国民年金受給者数と平均受給額は、平成十四年度が約二万四千五百人で約五十九万円である。なお、加入期間や納付の状況等、個人ごとに事情が異なるため、個々の把握は困難である。また、生活保護法により健康で文化的な最低限度の生活が保証されており、親切的な相談に心がけている。

## 情報化への対応

**質問** デジタルデバイス（情報格差）への対応や、光ファイバーの整備はどうなっているのか。また、高齢者等に対する対応はどうか。

**答弁** 情報格差への対応としては、地場産業振興センターにパソコンを配備して、パソコン講座の実施や、市役所一階にインターネット体験コーナーを設けている。また、市民のインターネット環境の整備としては、光ファイバーの接続サービ

スが始めるとともに、梅田・川内地区にも、ADSL接続サービスが始まった。

なお、平成十三年八月の市民の声アンケートによると、自宅でのコンピュータの所有率は四十パーセントという結果だったが、現在の状況は把握していない。

また、一人暮らしの高齢者に対しては、消防本部に通報でき、適切な救護を行うために設置している装置の貸与、地域型在宅介護支援センターとの相談ができる相談ボタンの設置がある。なお、身体障害者福祉セ

（インターネット体験コーナー）



ンターなど市内四か所に、身障者対応パソコン等を設置し、随時利用ができる。

## 施設入所待機者

**質問** 特別養護老人ホーム入所待機者の介護度はどうか。また、入所方法の変更に伴う準備はどうか。

**答弁** 特別養護老人ホームは、桐生広域圏内に十施設あり、この施設の四月末現在の待機者数は、六百八十人である。介護度別では、要支援は二十二人、要介護度一は百四十五人、要介護度二は百三十一人、要介護度三は百二十九人、要介護度四は百三十八人、要介護度五は百人、その他認定申

（介護認定審査会）



請中は十五人である。県内の各施設では、県の指針に基づき、入所の必要性に応じた対応をしており、待機

## 扇風機の設置

**質問** 教室に扇風機設置の参考資料とするための小・中学校普通教室の室内温度の調査はどうなったか。

**答弁** 参考資料として、夏期の室内温度実態調査を、昨年と今年の六・七・九月に行った。その結果、昨年は室内温度三十度以上が計測日数四十四日間、小学校が平均十三日間、中学校が平均十日間であり、今年度は現在計測中である。

## 消防団のポンプ車

**質問** 各消防団にある分団ポンプ車は、年数がたっているが状況はどうなのか。また、水槽付ポンプ車の導入は考えているか。

**答弁** 分団ポンプ車については、更新年数を十八年としており、県内平均十四・八年より長い設定となっている。また、分団への水槽付ポンプ車の導入については、山林火災等初期消火での活躍が期待できることから、導入については、山林を抱える分団からと考

ている。

## 渡良瀬川の整備

**質問** 桐生大橋から赤岩

（渡良瀬川）



橋に至る渡良瀬川河川敷は、中州や川岸に草木が生い茂り、タバコのポイ捨て、ゴミの不法投棄などが見受けられるが、整備予定はどのようになっているのか。

**答弁** 渡良瀬川左岸については、渡良瀬川河川緑地として、都市計画決定がされており、質問の場所は「自然保護学習エリア」とされている。

整備にあたっては、自生植物や動物の生息環境の保全を考慮し、桐生市環境基本計画との整合性を図る中で検討していきたい。

## 合併問題

**質問** 太田市との合併に

ついては、桐生のまちが合併によりどうなるのか、その実態が見えず、また、小さな町村の立場など考えないような状況が見えており、対等合併ではなく、太田市中心ではないのか。

**答弁** 合併に関する広報は、平成十三年十二月十五日号から二十九回、中核市を目指した平成十四年十一月以降十四回を数える。太田市中心というが、新市は合併協議会の新市建設計画

## 競艇問題

**質問** 競艇廃止問題で、

従事員対策や事後対策が不完全是あるがどうなのか。また、補償に関する訴訟問題についての見通しについてはどうなのか。

**答弁** 組合役員との会談で、収益改善がなされなければ存続は難しいと話し、処遇については、法に則り研究を進めたい、また、市の関係機関での雇用の確保も研究していく。訴訟については、四回の口頭弁論が

（桐生競艇場）



最終し、裁判長から和解の提示がされたが、相手が応じないとのことで、弁論再開を申し出たところである。

## 競艇問題

**質問** 競艇事業撤退の方針が出され、市長の考え、市民アンケートでの市民の考えは十分理解しているが、そこで働き生活をしている従事員とその家族に対してどのように考えているのか。

**答弁** 競艇事業の目的が、地方財政の改善という中で、売り上げの向上が見られず、逆に税金での補填が余儀なくされる状況の中、市民アンケートの結果での市民の意志等を考え、廃止を決意したが、従事員問題に対し

ては、誠意を持って対応していきたいと考えている。

## スクールバス

**質問** 登下校時におけるスクールバスの運行について、その運行条件が小学校四キロメートル、中学校六キロメートル以上であり、梅田以外はありひめバスで対応というが、そのおりひめバスの運行が下校時刻に合う時刻設定がないが、どのように考えているのか。

**答弁** 通学距離のある低学年児童の、特に冬季下校時における帰宅時間を心配

(スクールバス)



## 地域福祉権利擁護事業

**質問** 福祉サービスが、措置制度から、自ら選択できる契約制度へと変わったが、適切なサービスが受けられるようサポートする地域福祉権利擁護事業に関する情報提供や実績、事業の促進はどうか。

**答弁** 本事業は平成十一年度から桐生市社会福祉協議会が実施しており、社会福祉協議会の広報紙での情報提供、民生委員や在宅介護支援センターの職員等の会議での事業紹介を行って

## 食の問題

**質問** こどものころから身体に良い食べ物を選ぶ目を持たせる意味での「食育」についてを、どのように考えているのか。

**答弁** 食に関する問題は、家庭が中心と考えているが、食生活の乱れは学校現場でも指導しなければならぬ

いる。実績は、十二年度二件、十三年度十件、十四年度十二件の利用である。事業の促進にあたっては、利用者にとって利用しやすいものとなるよう努めたい。

問題と認識しており、学校給食共同調理場の栄養士が、要請により、食の指導や栄養指導を行っている。

(学校給食)



## 主な議案

この定例会で、可決された議案の要旨は次のとおりです。

### 学校設置条例に関する議案

桐生市立学校設置条例の一部を改正する条例案

原案可決(全員賛成)

### 概要

少子化の進展に伴い、適正規模の園児の確保が困難

となった、桐生市立川内北幼稚園を、平成十六年四月一日から廃止するもの。

条例施行日

平成十六年四月一日



川内北幼稚園

桐生市奨学資金に

関する議案

桐生市奨学資金貸与条例

の一部を改正する条例案

原案可決(全員賛成)

### 概要

新規申込者に対する奨学資金の貸付について、この権限を市長から教育委員会の所管する事務に改め、事務処理の効率化、迅速化を図るもの。

条例施行日

平成十五年十月一日

介護認定審査会委員に

関する議案

原案可決(全員賛成)

### 概要

審査件数の増加に伴い、委員の負担が増加しているため、桐生市外六か町村介護認定審査会委員の定数を四十二人から六十三人に変更しようとするもの。

条例施行日

平成十五年十月一日

## 請願の審査結果

この定例会では、請願一件の審査を行いました。その結果、請願は採択となりました。なお、議会は、採択となった請願第一号に係わる意見書を、議決しました。(同意見書は、八ページに掲載)

### 請願第一号

### 件名

出資法の上限金利の引き下げを求める請願

### 結果

採択(全員賛成)